

「失敗図鑑 すごい人ほどダメだった！」

大野 正人/著 文響社



「失敗するって恥ずかしいし、したくないなー」
そう思う人は多いはず。周りの目が気になったり、不安を感じている中高生に特におすすめです。どんな偉人でも人生の中で失敗しています。失敗をどうとらえるか、その後どうしたのかが書かれていて、学べます。誰でも知っているあの人があんなことを？と笑える要素満載の一冊。興味を持った偉人について詳しく知りたくなったら、伝記を読んでくださいね。

「月の影 影の海上 十二国記」

小野 不由美/著 新潮社

天意を受けた霊獣の麒麟と、その麒麟に選ばれし王が国を治めていく壮大なファンタジーシリーズ「十二国記」。10シリーズ、さらには上下巻等もあり、なかなかの読み応えですが、のめり込む面白さでページを捲る手が止まりません。「魔性の子」がシリーズの0巻目ですが、まずは本編1巻目の本作から読んでもらいたいです。きっとシリーズ全巻読みたくなること間違いなし！



「標本バカ」

川田 伸一郎/著 浅野 文彦/イラスト
フックマン社



国立科学博物館の研究室で、一体なにが行われているのか知っていますか？
モグラからクジラまで、あらゆる動物の死体集めと標本作製にひたすらいそしむ研究者の日常が綴られています。現場で遭遇する数々の事件…。
コミカルなイラストも絶妙な味わいを出しています。

高井戸 YA 新聞 2023 年秋号(46 号)

私の

推し本



「魔法があるなら」

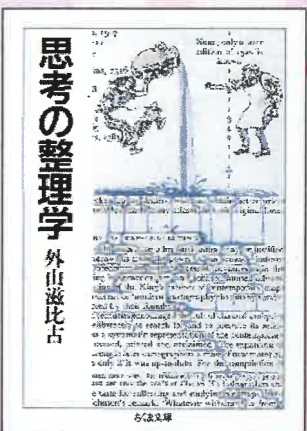
アレックス・シアラー/著

野津 智子/訳 PHP 研究所

デパートに住んでみたいと思ったことはありませんか？誰もいないおもちゃ売り場であそんでテントで眠る母子3人。そこに侵入者がやってきて…。

「思考の整理学」

外山 滋比古/著 筑摩書房



最近では情報のインプット・アウトプットについて書かれた本が数多く出版されていますね。この本もそんな本の一冊ですが、なんと今から40年前に発表された作品なのです。そして、今でも変わらず人気です。見た目こそ仰々しいですが、エッセイのような語り口で描かれているのでスルスルと内容が頭に入っていきます。実践的な方法の紹介もされているので、ぜひ自分でも試してみてください！

「サバンナで野生動物を守る」

沢田 俊子/著 講談社



南アフリカ共和国で、日本人女性で唯一アフリカ政府公認のサファリガイドとして活躍する太田ゆかさん。動物好きなら一度は憧れる野生動物に関わる仕事に、太田さんはどのようにして就くことができ、どんな活動をしているのか、現在サバンナではどのような問題が起こっているのかなどが描かれたノンフィクション。児童向けの平易な文体でも中身の濃い、ぜひ幅広い年齢層に読んでほしい一冊です。

「太陽の子」

灰谷 健次郎/作 田畑 精一/絵 理論社



神戸の下町で沖縄料理のお店を営むふうちゃん一家と、その周りの人たちの物語。初めて読んだ中学時代も、大人になって再び読んだ時にも大きく心を揺さぶられた直球の一冊です。
YA 世代にとって、昭和に起こったことは歴史上のできごととを感じるかもしれませんが、今でも変わらない思いやメッセージを受け取って欲しいです。